

# 目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	文学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 履修登録科目数の上限設定によって履修者数を適正化する	→開講科目数と履修者数	B	B	B	/	/
2. 教務主任等による学習指導や学生主任等による生活状況の把握によって成績不振者等の就学意欲を向上する	→「成績に関する面談」の対象となった当該学生の単位取得状況や進級・卒業状況	B	C	C	/	/
3. 「人文学の幅広い教養」を提供するためにシラバスの情報提供方法を多元化する	→ネットシラバスの閲覧およびダウンロード可能箇所数とそれぞれのアクセス数	D	D	D	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

## 《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	入門や概論などで履修者数が500名を超える科目が多く見られたが、総合科目の一部では履修者制限を行った（総合A：200名、総合L：350名）。また、語学科目はクラス指定制、一部の学科科目は申込制をとるなどの履修者制限も行っている他、3、4年次の専門演習では上限25名に設定するなどの人数制限を行っている。全体としては多くの科目で少人数教育が行われていると言ってよい状態である。
☆ 目標2	全ての成績不振者をリストアップし、面談を実施することはできず、成績に関する面談は一部のみであった。ゼミでの欠席が続く学生などに対するケアは当該ゼミの担当者などが個別に行っているが、ゼミに所属しない2年生に対する配慮が手薄になる傾向がある。2012年度はある一定の基準をもとにした成績不振者を対象に面談を行うべく、すでにリストアップ作業に着手している。
目標3	シラバスはネットシラバスのみであり、多元化には着手していないが、近年の学生はペーパーレスに慣れており、ネットシラバスを十分に使いこなしているため、講義内容・方法に関する情報は十分に伝わっている。また、多くの教員が初回講義時に紙媒体で講義概要を説明したハンドアウトを配布している。
備考	2012年度の内規の一部改正により、全学年で年間履修単位上限数を50単位以下としたことにより、履修者数の適正化が進むと考えられるが、この成果が完全に出るのは4年後になる。